

2019年9月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2019年5月10日

上場会社名 フィンテック グローバル株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 8789 URL <http://www.fgi.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 玉井 信光  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 上席執行役員 (氏名) 千田 高 (TEL) 03-6456-4600  
 四半期報告書提出予定日 2019年5月14日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2019年9月期第2四半期の連結業績(2018年10月1日~2019年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年9月期第2四半期	3,277	91.3	△1,467	—	△1,567	—	△1,244	—
2018年9月期第2四半期	1,713	△57.8	△610	—	△706	—	△414	—

(注) 包括利益 2019年9月期第2四半期 △1,601百万円(—%) 2018年9月期第2四半期 △436百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年9月期第2四半期	△6.50	—
2018年9月期第2四半期	△2.53	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年9月期第2四半期	20,875	9,050	37.1
2018年9月期	14,016	8,551	52.2

(参考) 自己資本 2019年9月期第2四半期 7,750百万円 2018年9月期 7,311百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年9月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2019年9月期	—	0.00	—	—	—
2019年9月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2019年9月期の期末配当予想は未定としております。

3. 2019年9月期の連結業績予想(2018年10月1日~2019年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
通期	11,040	199.3	510	—	310	—

(注) 1 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

2 売上総利益の通期予想は、6,880百万円(前期比204.3%増)であります。

3 親会社株主に帰属する当期純利益の予想値は、開示を控えさせていただきます。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 有  
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 1社 (社名) メッツァ2号投資事業有限責任組合 (変更前の名称 FGTベンチャーフ  
 ァンドA号投資事業有限責任組合)

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
 ② ①以外の会計方針の変更 : 無  
 ③ 会計上の見積りの変更 : 無  
 ④ 修正再表示 : 無

- (4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2019年9月期2Q	201,109,600株	2018年9月期	185,986,400株
② 期末自己株式数	2019年9月期2Q	一株	2018年9月期	一株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2019年9月期2Q	191,572,055株	2018年9月期2Q	163,550,537株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(追加情報)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間は、メッツァビレッジが2018年11月9日に、ムーミンバレーパークが2019年3月16日に開業したことにより、入園料、有料施設利用料、物販、飲食、テナント賃料、駐車場料等の売上計上を開始いたしました。来場者数は、ムーミンバレーパークが開業から3月末までの16日間で7.4万人、メッツァ全体では、2019年3月26日に累計50万人に達し、順調に推移しております。本業の投資銀行事業については、不動産・航空機アセットマネジメント収入やアレンジメント手数料、メッツァ賃貸収入等を中心とする安定的な収入を確保する体質への改善が進んでおります。しかしながら投融資に関しては、ファンドを介したライフサイエンス・IT企業への投資で減損3.6億円が発生しました。アセット投資は不動産を保有する特別目的会社への出資などにより実行したものの、投資回収（エグジット）に至らず下半期回収見込となった案件もあり、投資銀行事業は減収となりました。

当第2四半期連結累計期間の売上高は、メッツァ開業の他、2018年9月期第2四半期以降の子会社増加も寄与して3,277百万円（前年同期比91.3%増）となりましたが、売上原価はメッツァの商品・材料仕入と諸経費、労務費のほか、子会社増加、企業投資の減損の影響により2,327百万円（前年同期比213.3%増）となり、売上総利益は950百万円（前年同期比2.0%減）となりました。販売費及び一般管理費は、メッツァ関連の人件費、宣伝広告費、その他諸費用が増加し、子会社増加の影響も受けて2,418百万円（前年同期比53.0%増）となった結果、営業損失は1,467百万円（前年同期は610百万円の損失）、経常損失は1,567百万円（前年同期は706百万円の損失）となりました。親会社株主に帰属する四半期純損失は、非支配株主に帰属する四半期純損失339百万円により1,244百万円（前年同期は414百万円の損失）となりました。

（単位：百万円）

	2018年9月期 第2四半期連結累計期間	2019年9月期 第2四半期連結累計期間	増減額
売上高	1,713	3,277	1,564
投資銀行事業	1,459	1,381	△78
公共コンサルティング事業	181	445	264
エンタテインメント・サービス事業	77	1,563	1,486
その他	13	21	7
消去	△17	△133	△115
売上総利益	970	950	△19
投資銀行事業	869	379	△489
公共コンサルティング事業	79	237	158
エンタテインメント・サービス事業	24	359	335
その他	13	21	7
消去	△16	△47	△31
営業損失（△）	△610	△1,467	△857
投資銀行事業	397	△404	△802
公共コンサルティング事業	△20	76	97
エンタテインメント・サービス事業	△386	△691	△305
その他	△6	△3	2
消去又は全社費用	△595	△443	151
経常損失（△）	△706	△1,567	△861
税金等調整前四半期純損失（△）	△416	△1,536	△1,120
親会社株主に帰属する四半期純損失（△）	△414	△1,244	△830

なお当社は、不動産小口化投資商品組成のための不動産（信託受益権を含む。）取得、新たな投資商品組成及びM&A対応のための資金を調達するため、第19回新株予約権（第三者割当）を2018年12月4日に発行しましたが、2019年3月18日をもって本新株予約権は全数が行使され、新株予約権発行及び行使により1,808百万円を調達しました。

セグメント別の業績は以下のとおりであり、売上高についてはセグメント間の内部売上高又は振替高を含めた売上高で表示しております。

#### ① 投資銀行事業

投資銀行業務は、前期より開始したM&A関連業務において対象企業の課題解決策も提供することで、成約件数は増加基調で推移しました。また不動産アセットマネジメント業務は受託資産の一部売却によって、成功報酬を売上計上しております。しかしながら、不動産等への自己投融資であるアセット投資においては、投資回収があったものの、売上高は前年同期比で減少し、企業投資においては、ベンチャーキャピタルファンドへの投資で減損により360百万円の営業投資有価証券評価損を計上しました。

新規投融資は、不動産小口化投資商品組成のために不動産を投資ビークルを通じて取得し、売却活動を開始しました。なお、前連結会計年度の第2四半期から損益計算書を連結しているSGI-Group B.V.及びその子会社4社が行う航空機アセットマネジメント業務は、堅調に推移しております。

また当社は、メッツァビレッジについて連結子会社である㈱ムーミン物語へのマスターリースにより、賃料収入を計上しました。

以上の結果、投資銀行事業の売上高は1,381百万円（前年同期比5.4%減）、セグメント損失は404百万円（前年同期は397百万円の利益）となりました。

#### ② 公共コンサルティング事業

公会計事業は、地方公共団体に対する統一的な基準による財務書類作成のコンサルティング業務と並行して、市場拡大が見込まれるPPP/PFI手法の導入検討等を推進しております。そして既取引先には、財務書類作成に加え、財務分析レポート作成や公営企業の経営戦略策定等のコンサルティング受託の営業活動を推進しております。

前連結会計年度の第3四半期から損益計算書を連結している㈱ジオプラン・ナムテックが行う都市インフラ管理システム事業は、既存の保守案件が順調に推移し、新規案件も取り込むことによって、着実に業務を拡大させました。なお当社は、2019年4月11日開催の取締役会において、同社株式の一部譲渡及び取得を決議しておりますが、2019年5月（予定）にこれを実行することにより、同社は当社の持分法適用関連会社（持株比率34%）となります。

以上の結果、公共コンサルティング事業の売上高は445百万円（前年同期比146.0%増）、セグメント利益は76百万円（前年同期は20百万円の損失）となりました。

#### ③ エンタテインメント・サービス事業

エンタテインメント・サービス事業では、㈱ムーミン物語が運営するメッツァビレッジが2018年11月に開業し、2018年12月から2019年3月に「チームラボ 森と湖の光の祭」を開催するなど、積極的な集客施策を展開しました。ムーミンバレーパークについては、開業日である2019年3月16日から31日の16日間とプレオープン3日間の合計19日間で、入園チケット・有料施設、物販、飲食によって499百万円の売上高となり、当初想定を上回る結果となりました。

㈱ムーミン物語が44.5%出資する㈱ライツ・アンド・ブランズについては、重要性が増したため、第1四半期連結会計期間より連結の範囲に含めております。同社は、日本国内におけるムーミンキャラクターの使用許諾に関する独占的な権利を供与されたサブライセンサーとして事業を展開していますが、さらに当第2四半期連結会計期間から保有するムーミンのアニメ放映権により放映権販売を開始し、2019年4月からNHKでの放映が始まりました。この放映権販売によって、当社グループはムーミンの認知度とブランドバリューの更なる向上を期待するとともに、今後の二次利用展開も計画しております。

エンタテインメント・サービス事業の売上高は、メッツァビレッジ及びムーミンバレーパークの開業並びに㈱ライツ・アンド・ブランズの新規連結により1,563百万円（前年同期比1,929.0%増）となりましたが、メッツァビレッジ及びムーミンバレーパークの開業準備・運営費用等によりセグメント損失は691百万円（前年同期は386百万円の損失）となりました。

#### ④ その他

㈱アダゴテックは、解析システムの検証・組み込み等に多数のお引き合いをいただき、複数の適用プロジェクト

トが進捗しております。

その他の売上高は21百万円（前年同期比59.8%増）、セグメント損失は3百万円（前年同期は6百万円の損失）となりました。

## （2）財政状態に関する説明

### （総資産）

当第2四半期連結会計期間末における総資産は前連結会計年度末より48.9%増加し、20,875百万円となりました。これは主として、現金及び預金が1,108百万円、メツァビレッジ及びその他の不動産開発案件の竣工等により仕掛販売用不動産が2,781百万円、ムーミンバレーパークの竣工等により建設仮勘定が2,431百万円減少したものの、(株)ライツ・アンド・ブランズの新規連結や公共コンサルティング事業の自治体等に対する売掛金の増加及びメツァにおけるクレジットカード決済により受取手形及び売掛金が486百万円、仕掛販売用不動産からの振替等により販売用不動産が4,219百万円、ムーミンバレーパークの竣工等により建物及び構築物（純額）が5,016百万円、(株)ライツ・アンド・ブランズの新規連結によりれんが43百万円増加したことによるものであります。

### （負債）

当第2四半期連結会計期間末における負債は前連結会計年度末より116.4%増加し、11,824百万円となりました。これは主として、特別目的会社である子会社が金融機関に借入金3,260百万円を返済すると同時に、金融機関4行から長期ローン5,600百万円を調達したことによって、1年内返済予定の長期借入金が3,071百万円減少し、長期借入金が5,977百万円増加したことによるものであります。

### （純資産）

当第2四半期連結会計期間末における純資産は前連結会計年度末より5.8%増加し、9,050百万円となりました。これは主として、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上等により利益剰余金が1,268百万円減少したものの、非支配株主持分が50百万円、新株予約権の行使等により資本金が910百万円、資本剰余金が813百万円増加したことによるものであります。

なお、「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 2018年2月16日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、財政状態については遡及処理後の前連結会計年度末の数値で比較を行っております。

## （3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

	売上高 (百万円)	売上総利益 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)
2019年9月期 (予想)	11,040	6,880	510	310
2018年9月期 (実績)	3,689	2,261	△1,072	△1,227
増減率	199.3%	204.3%	—	—
増減額	7,350	4,618	1,582	1,537

連結業績予想は上記の通りであり、2018年11月8日付の2018年9月期決算短信で公表した連結業績予想に変更はありません。

ムーミンバレーパーク開業前においては、初年度はメツァ全体で137万人（うちムーミンバレーパークは88万人）の年間来場者を想定しておりましたが、現状は170万人（うちムーミンバレーパークは110万人）を超える勢いでご来場いただいております。

(株)ムーミン物語では、年間初年度来場者数200万人（うちムーミンバレーパークは128万人）を目指して、サービス・オペレーション体制の整備を進めております。この来場者増により当社の下半期の連結業績にもこれまで以上に貢献が期待できます。

上半期の投資銀行事業における企業投資の減損による業績への影響は大きいものの、不動産アセットマネジメントやM&A関連等の業務受託は順調に推移しています。また下半期における企業投資とアセット投資の回収も目途が立ってきています。

これらを総合的に勘案し、期末業績予想の変更はいたしません。

なお、親会社株主に帰属する当期純利益に関しましては、(株)ムーミン物語が進めている第三者割当増資による非支配株主持分の増加が影響を与えることが考えられます。この結果は投資家の動向にもよることから、現時点で合理的に予想することは困難であるため、親会社株主に帰属する当期純利益は開示しない方針としております。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,267,738	3,159,420
受取手形及び売掛金	644,824	1,131,663
営業投資有価証券	1,017,184	1,237,908
営業貸付金	576,924	596,601
販売用不動産	304,516	4,523,669
仕掛販売用不動産	2,781,914	700
商品	15,298	144,669
原材料及び貯蔵品	1,634	25,001
その他	386,376	1,253,505
貸倒引当金	△117,232	△110,673
流動資産合計	9,879,178	11,962,466
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	236,436	5,275,444
減価償却累計額	△19,782	△42,430
建物及び構築物 (純額)	216,653	5,233,014
建設仮勘定	2,455,866	24,000
その他	645,193	2,349,760
有形固定資産合計	3,317,713	7,606,774
無形固定資産		
のれん	268,344	312,272
その他	74,843	564,096
無形固定資産合計	343,188	876,369
投資その他の資産		
投資有価証券	85,248	69,982
その他	391,206	359,528
貸倒引当金	△264	—
投資その他の資産合計	476,191	429,510
固定資産合計	4,137,093	8,912,654
資産合計	14,016,272	20,875,120

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	293,215	560,506
短期借入金	—	532,000
1年内返済予定の長期借入金	3,586,081	514,091
未払法人税等	73,216	120,050
賞与引当金	114,928	122,100
その他	734,587	2,448,925
流動負債合計	4,802,029	4,297,674
固定負債		
長期借入金	532,787	6,510,703
退職給付に係る負債	91,640	91,414
その他	38,664	924,472
固定負債合計	663,091	7,526,590
負債合計	5,465,120	11,824,264
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,551,419	6,461,911
資本剰余金	4,149,561	4,963,469
利益剰余金	△2,387,101	△3,655,615
株主資本合計	7,313,879	7,769,765
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	11,166	△2,910
為替換算調整勘定	△13,754	△15,960
その他の包括利益累計額合計	△2,588	△18,871
新株予約権	54,605	64,406
非支配株主持分	1,185,254	1,235,556
純資産合計	8,551,151	9,050,856
負債純資産合計	14,016,272	20,875,120

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2017年10月1日 至2018年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自2018年10月1日 至2019年3月31日)
売上高	1,713,533	3,277,955
売上原価	742,695	2,327,007
売上総利益	970,837	950,948
販売費及び一般管理費	1,581,260	2,418,784
営業損失(△)	△610,423	△1,467,835
営業外収益		
受取利息	2,620	2,653
債務時効益	2,979	5
受取和解金	—	5,821
その他	4	391
営業外収益合計	5,603	8,871
営業外費用		
支払利息	28,401	63,514
為替差損	59,087	14,223
支払手数料	13,576	30,833
その他	304	23
営業外費用合計	101,370	108,594
経常損失(△)	△706,189	△1,567,558
特別利益		
関係会社株式売却益	267,387	58,845
新株予約権戻入益	11,990	1,448
その他	11,069	—
特別利益合計	290,447	60,294
特別損失		
固定資産売却損	—	891
固定資産除却損	670	28,587
その他	—	178
特別損失合計	670	29,657
税金等調整前四半期純損失(△)	△416,413	△1,536,922
法人税、住民税及び事業税	30,976	56,917
法人税等調整額	△810	△9,821
法人税等合計	30,166	47,096
四半期純損失(△)	△446,579	△1,584,018
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△32,287	△339,502
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△414,291	△1,244,515

四半期連結包括利益計算書  
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年10月1日 至 2018年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年10月1日 至 2019年3月31日)
四半期純損失(△)	△446,579	△1,584,018
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	965	△14,077
為替換算調整勘定	9,039	△3,103
その他の包括利益合計	10,005	△17,180
四半期包括利益	△436,574	△1,601,198
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△407,134	△1,260,798
非支配株主に係る四半期包括利益	△29,440	△340,400

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第2四半期連結累計期間において、新株予約権の行使により資本金及び資本剰余金がそれぞれ910,492千円増加しております。この事項とその他の変動を含めた結果、当第2四半期連結会計期間末において、資本金が6,461,911千円、資本剰余金が4,963,469千円となっております。

(セグメント情報等)

I 前第2四半期連結累計期間(自 2017年10月1日 至 2018年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	投資銀行 事業	公共コンサル ティング事業	エンタテイン メント・ サービス事業	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	1,445,330	179,191	75,642	1,700,164	13,369	1,713,533	—	1,713,533
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	14,068	2,000	1,393	17,461	—	17,461	△17,461	—
計	1,459,398	181,191	77,035	1,717,625	13,369	1,730,994	△17,461	1,713,533
セグメント利 益 又は 損 失 (△)	397,734	△20,958	△386,022	△9,247	△6,106	△15,353	△595,069	△610,423

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、連結子会社が行っているコンピュータソフトウェアの研究、開発、製造及び販売を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額△595,069千円には、セグメント間取引消去54,549千円及び報告セグメントに配分していない全社費用△649,619千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整しております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

第1四半期連結会計期間において、当社が保有するベターライフサポートホールディングス(株)の全株式を譲渡し、連結の範囲から除外したことにより前連結会計年度の末日に比べ、「不動産事業」のセグメント資産が5,740,285千円減少しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

「投資銀行事業」において、第1四半期連結累計期間に、当社の連結子会社であるフィンテックグローバルトレーディング(株)が設立した合同会社SGIインベストメントが、SGI-Group B.V.の株式を新規取得しております。これに伴う「投資銀行事業」ののれんは、当第2四半期連結会計期間において207,048千円であります。

また、「公共コンサルティング事業」において、当第2四半期連結累計期間に、当社の連結子会社である(株)ナムテックが、(株)ジオプラン・ナムテックの全株式を取得しております。これにより「公共コンサルティング事業」ののれんが93,263千円発生しております。

(重要な負ののれんの発生益)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間(自 2018年10月1日 至 2019年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	投資銀行 事業	公共コンサル ティング事業	エンタテイン メント・ サービス事業	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	1,257,912	439,787	1,558,897	3,256,598	21,357	3,277,955	—	3,277,955
セグメント間 の内部売上高 又は振替高 (注) 4	123,307	6,000	4,150	133,457	—	133,457	△133,457	—
計	1,381,220	445,787	1,563,048	3,390,055	21,357	3,411,413	△133,457	3,277,955
セグメント利 益 又は 損 失 (△)	△404,967	76,059	△691,918	△1,020,826	△3,646	△1,024,472	△443,362	△1,467,835

- (注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、連結子会社が行っているコンピュータソフトウェアの研究、開発、製造及び販売を含んでおります。
- 2 セグメント利益又は損失(△)の調整額△443,362千円には、セグメント間取引消去121,808千円及び報告セグメントに配分していない全社費用△565,171千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
- 3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整しております。
- 4 「投資銀行事業」におけるセグメント間の内部売上高又は振替高には、「投資銀行事業」に属する当社が「エンタテインメント・サービス事業」に属する連結子会社である㈱ムーミン物語に賃貸するメッツァビレッジの賃料収入108,688千円が含まれております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

該当事項はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

「エンタテインメント・サービス事業」において、㈱ライツ・アンド・ブランドの新規連結に伴う、当第2四半期連結会計期間ののれんは、64,681千円であります。

(重要な負ののれんの発生益)

該当事項はありません。